

I. 総論

変形性関節症の薬物治療

高知大学医学部整形外科 杉村 夏樹, 池内 昌彦

KEY WORDS

- 変形性関節症
- 保存治療
- 薬物療法

はじめに

変形性関節症(osteoarthritis : OA)は、自己修復力に乏しい関節軟骨の退行変性を基盤に、荷重、外傷が加わり関節軟骨破壊を生じ、二次的な滑膜炎、線維化、骨増殖、変形などによって次第に関節機能が障害されていく疾患である。これまでのところ、OAに対して明らかな疾患修飾作用を有する薬剤はなく、多くのOA患者の主訴である痛みが治療対象となっている。OAの痛みは、関節軟骨を除くすべての関節構成組織(軟骨下骨、滑膜、関節包、靭帯など)に存在する侵害受容器が刺激を受けて発生する。この侵害刺激は痛み伝導路である神経系の変調によって修飾を受け、さらには心理社会的要因も加わって複雑化、難治化する。本稿では、OAの基本的な治療方針を踏まえて薬物療法を概説する。

I. 変形性関節症の基本的な治療方針

2019年のOsteoarthritis Research Society International(OARSI), 2020年のAmerican College of Rheumatology(ACR)のOAに対する保存療法のガイドライン(GL)では、病期や合併症の有無にかかわらず、まず患者教育、筋力訓練、バランス訓練などが安全かつ有効なコアトリートメントとして推奨されている¹⁾²⁾。適切な体重管理や過負荷となる肉体的労働の調整などは、鎮痛に加えてOAの進行予防に有効かもしれない³⁾。こうした非薬物療法で対処できない痛みに対して薬物療法を検討する。2019年OARSI GLでメタ解析により検討された保存療法の効果量を表に記す。OAに対する外科的治療は侵襲を伴い、また一定の確率で合併症を伴うため、原則、理学療法、装具療法、薬物療法などの保存療法を十分に行い、なお適切な疼痛軽減が得られない

Pharmacological therapy of osteoarthritis.

Natsuki Sugimura
Masahiko Ikeuchi(教授)